(麻美) でさ 案内所行ったらさ ｢次は人間です｣って言われて｡

(夏希) マジで？

(美穂) すごくない？

だってさ 人間って そんな簡単になれないんだよね？

(真里) 私 １回も言われたことない｡

(夏希) え～ よかったじゃん｡

(麻美) う～ん… でも何か そのまま 来世に行く気にはなれなくてさ｡

>> えっ 何で？ いいじゃん 人間｡

(夏希) ねぇ｡

てか 人間になるために 何周もしてたんじゃないの？

(麻美) そうなんだけどさまだやり直せるんだったら ３人 助けたいじゃん｡

>> えっ うちらのためなの？

(麻美) そりゃそうだよ！

(美穂) マジで？

(夏希) え～！ ありがとう｡

(美穂) ありがとね あーちん｡ >> あっ ここ出すよ ね？

(美穂) 出す 出す｡ >> あーちん 好きなの食べて｡

(美穂) 食べな 食べな～｡

(麻美) でも お腹は大丈夫かな｡

さっき ごはん食べてきたし｡

(美穂) まぁ そうだよね｡

ごはん食べちゃったもんね｡

(麻美) ていうか 福ちゃん 大丈夫かな？

(美穂) 何が？

(麻美) 何か うちらに気を使って ポテト持ってきそうじゃない？

(美穂) 確かに 福ちゃんなら あり得るよね｡

(麻美) 正直 もう入んないよね｡

(夏希) 入んない｡

気持ちはありがたいけど 全然入んない｡

(麻美) そう 気持ちは超ありがたいのよ｡

でも 入んないのも事実だよね｡

(夏希) 揺るがざる事実だね｡

(美穂) でも うちらがごはん食べてきた ことは一応伝えたからね｡

(麻美) 言ってたね みーぽん｡ >> でも どうだろう｡

伝わってるといいけど…｡

(ノック)

(麻美) あっ 来た｡

♪～

(塚地) おはようございま～す｡

(拍手)

(目覚まし時計のベル)

(麻美) ⟨５回目の人生も７年目⟩

⟨今日は待ちに待った ５度目の小学校入学式⟩

(担任) 今日から １年２組のクラスメートです｡

みんなで楽しく仲良いクラスに していきましょう｡

(児童たち) は～い！

(麻美) ⟨なっちとみーぽんの生存も 確認⟩

⟨そして…⟩

(久美子) 帰り ジャスコ寄ろうか｡

(麻美) うん｡ >> 何買おうかな～？

(麻美) ケーキがいい｡ >> あっ ケーキ…｡

♪～

いまの子お友達？

(麻美) うん｡

(麻美) まえ公園で一緒に遊んだの。

えーそうなの？名前は？ （麻美）えっと真理ちゃん

真理ちゃん。ふーん 仲良くなれるといいねぇ

(麻美) うん

(麻美) まりりんも最後の人生なの？ >> うん｡

お互い大事に生きなきゃね｡

(麻美) そうだね｡

あっ そういえば ごめんね あの時 ウソついちゃって｡

(麻美) ウソ？ >> ほら ホントはフライト １か月後なのに 来年とか言って｡

(麻美) あぁ… ううん｡

私に 心配かけたくなかったんでしょ？

うん でも失敗しちゃったら 意味ないよね｡

(麻美) 前回は何がダメだったの？

うん… えっとね 簡単に言うと航路を変更できなかったの｡

(麻美) ⟨まりりんは予定通り あの便に 副操縦士として搭乗した⟩

⟨そこまでは よかったのだけど…⟩

(真里)〔中村キャプテン…〕

(麻美) ⟨機長の中村さんに 航路変更の提案をすると理由が納得のいくものではないと 却下されてしまった⟩

⟨それでも まりりんは ギリギリまで説得を続け最後は 半ば強引に 航路を変更しようとするも機長に制され 失敗した⟩

そうだったんだ｡

でも 今回は大丈夫｡

(麻美) じゃあ 今回もパイロットになるの？

うん 前回は私が副操縦士として先輩機長と組んだから ダメだったけど今回は 私が機長で 後輩の副操縦士と組めば問題ないと思う｡

(麻美) そっか｡

今回は私もなるから｡

>> え？

(麻美) パイロット｡

２人で組めば もっと確実でしょ？

いや そうだけど… いいの？

(麻美) もちろん てか そのために戻ってきたし｡

>> ありがとう！

(麻美) フフフ｡

⟨こうして私は まりりんと一緒に パイロットを目指すことにした⟩

⟨とはいえ 目指したからといって 簡単になれる職業ではない⟩

⟨普通 機長はパイロットの訓練を 開始してから大体15年つまり 40歳前後でなれると いわれている⟩

そんなにかかんの？ >> 普通はね｡

でも それじゃ 間に合わないからさ｡

(麻美) だよね｡

35歳で機長になってなきゃ いけないもんね｡

>> いや もっと早くならなきゃ いけないと思う｡

(麻美) 何で？

そもそも その飛行機に乗るにはまず シフトに 入れてもらわなきゃいけないのね｡

でも シフトの希望って 正式に出せるわけじゃなくてあくまでも根回しだからさ｡

新人よりもベテランのほうが 優先してもらいやすいんだよね｡

(麻美) そうなんだ｡ >> だから そのためには35歳の時点で ある程度のキャリアとスケジューラーさんとの 信頼関係を築いておく必要があるんだよね｡

(麻美) えっ じゃあ 何歳くらいまでに なってればいいの？

>> う～ん 29歳くらいが理想かな？

(麻美) 29歳？

相当頑張んないと無理じゃない？ >> そう｡

だから 今のうちからできることを 全部やっとこう｡

(麻美) 分かった｡

⟨こうして 私は まりりん指導の下小学校から 飛行機の知識を徹底的に学び…⟩

(麻美) ⟨同時に体力づくりにも励んだ⟩

⟨まりりんいわく 今のうちから丈夫な体を つくり上げておくことでケガや病気の確率を 下げられるからとのこと⟩

⟨正直 私は勉強だけで いいんじゃないかと思ったけどまりりんが このメニューで パイロットになった実績がある以上 従うしかない⟩

これって意味あるんだよね？ >> あるよ｡

特に あーちんは 風邪もひきやすいし今のうちから免疫力上げて 健康優良人になっとかないと｡

(麻美) そっか｡

⟨今は子供なのでここは ｢健康優良児｣で いいんじゃないかと思ったけどめんどくさいので黙っておいた⟩

⟨そんな感じで私たちは毎日 学んでは鍛え…⟩

⟨学んでは鍛え続けた⟩

(２人)♪～ 澄み渡る 大空に

(麻美) ⟨しかし その結果⟩

(夏希) 麻美ちゃん 真里ちゃん バイバイ｡

(美穂) バイバ～イ！

(真里:麻美) バイバイ｡

(夏希)“もののけ姫”見た？

(美穂) あ～ アシタカいいよね｡

(麻美) ⟨今回も仲良くなりそびれた⟩

(夏希) ドラマクラブやんない？

(美穂) あぁ いいね｡

(夏希) じゃあ 帰ったら 小松商店集合ね｡

(美穂) ＯＫ 分かった｡

(夏希) じゃあ ドラマノート持ってくるね｡

(麻美) ⟨それでも一応 シール交換は試みた⟩

私たちも混ぜて｡

(美穂) 別にいいよね？

(夏希) うん いいよ｡

(美穂) じゃ 真里ちゃんにこれあげる｡ >> ありがとう｡

(美穂) 麻美ちゃんに これあげるよ｡

(麻美) ありがとう｡

>> あっ じゃあ 好きなの取って｡

(麻美) 私も｡

(美穂) ホントに？

(美穂) じゃあ… 私 これ｡

これ？

(夏希) 私は これがいい｡

(麻美) えっ これでいいの？

(美穂) うん｡

(夏希) うん｡

(麻美) ⟨また 接待交換させてしまった⟩

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ “夕焼け小焼け”

(夏希) ２人とも塾とか通ってるの？

(麻美) ううん 行ってないよね？

>> うん 行ってない｡

(美穂) そうなの!?

(夏希) すごい！ 何でそんなに頭いいの？

(麻美) どうだろう｡

家とかでも 勉強してるからかなぁ？

(美穂) でもさ～ 元々の頭もいいんじゃない？

(麻美) いやぁ そんなことないない…｡

(美穂) あるよね あるよね｡

いやいやいや…｡

じゃ 私 こっちだから｡

(夏希) 私も｡

(麻美) あ そっか…｡

(夏希) また あしたね｡

(麻美) うん｡

(夏希) バイバイ｡

(美穂) バイバ～イ｡

(麻美) バイバイ｡ >> バイバイ｡

(麻美) まりりんも あっちじゃなかった？

うん あっち｡

(麻美) えっ 何で こっち来ちゃったの？

何か つい…｡

(麻美) ２人と もっと話せる チャンスだったのに｡

いや ２人に 気使わしちゃうかなって思って｡

(麻美) そっか｡ >> うん｡

(麻美) 家 寄る？

うん｡

(麻美) じゃ 何か アニメでも見よっか｡

⟨この後 ２人で見た “忍たま乱太郎”が何だか いつもより染みた⟩

⟨５度目の中学校生活⟩

ありがとうございます｡

(麻美) ⟨今回も成績はトップ⟩

(麻美) ⟨高校も前回と同じで 成績もトップで卒業⟩

⟨そして前回と同じ国立大学に入学⟩

⟨今回は工学部を選択した⟩

⟨違う大学のまりりんとは 放課後…⟩

(真里) ＭＥＴＡＲとＴＡＦの読み方ね｡

(麻美) ⟨どちらかの家で勉強会を開く という毎日を送った⟩

まずは ＲＪＴＴ｡

(麻美) ⟨そして迎えた５度目の成人式⟩

⟨今回がファイナル⟩

(男) おい！ そうじゃねえだろ ジジイ！

つまんねえ話 してんじゃねえぞ｡

(男) よっ 待ってました～！

ウェ～イ！ ウェ～イ！

(麻美) ⟨微生物を見るのは これが最後だと思うと何だか少し寂しい気もした⟩

⟨そして その後⟩

(福田)♪～ オレは イケナイ太陽

(真里:麻美) 福ちゃん！ >> ♪～ Ｎａ Ｎａ

(麻美) ⟨私たちは最後の成人式の夜を 全力で楽しんだ⟩

ねぇ 何か不思議じゃない？ >> 何が？

(麻美) 今回が最後です って言われるとさ全部の体験が 貴重に思えてこない？

確かに 元々 最後のはずなんだけどね｡

(麻美) そうなんだよね 別に今までも 雑に生きてきたつもりは全然ないのよ だけどさ 最後ですって言われるとさ大事に生きなきゃって思うよね｡ >> あれだ｡

閉店セール理論だ｡

(麻美) 柏木うどん理論ね｡

柏木うどん！ ヤバっ めっちゃ懐かしいんだけど｡

(麻美) 柏木うどんもさ なくなる直前 めっちゃ混んだじゃん｡

混んだ！ 何かさ みんな 今まで行かなかったくせに最後 変に殺到しちゃったからさ元々行ってた人が 入れなかったんだよね｡

(麻美) そうなんだ じゃあ まりりん よく行ってたの？ 柏木うどん｡

>> ううん 行ってない｡

(麻美) あ そうなの？

閉まるって聞いてからは？ >> それは行った｡

(麻美) 殺到した側じゃん｡

よくそんなこと言えたね｡

そ… そりゃまぁ…｡

(麻美) ⟨とにかく 今の私たちは 柏木うどん状態⟩

♪～

(加藤)粉

(麻美:加藤)♪～ 雪 ねえ

(麻美) ⟨大事に すすらなければいけない⟩

♪～ 染められたなら

(麻美) ⟨一方 大学２年になると航空学校を 受けられるということで早速 試験を受けた⟩

⟨１次試験はセンター試験レベルの英語と 理系の筆記試験⟩

⟨このへんは余裕⟩

⟨２次試験は身体検査⟩

⟨基本的な身長 体重の他に視力や色覚 聴力 平衡感覚などとにかく全部を検査されるけど健康優良人なので問題なし⟩

⟨そして３次試験の フライトシミュレーター⟩

⟨これも小学校の頃から…⟩

〔これ すご…〕

⟨まりりんの 手作りシミュレーターでイメトレをしてきた甲斐もあり うまくいった⟩

⟨ちなみに このシミュレーターは彼女が人生４周分かけて 改良を重ねたﾊﾞｰｼﾞｮﾝ４なので小学生では あり得ないクオリティー⟩

(面接官) なぜ パイロットになりたいのですか？

(麻美) ⟨そして面接⟩ 私は 幼少期から…｡

⟨これも まりりんから…⟩

(真里)〔この眼鏡の短髪の人が 大貫さん〕

〔この人は苦労話に弱いからちょうどいい苦労話を 持っておくといいと思う〕

(麻美)〔苦労話ね… 何個か用意しとく〕

⟨面接官別に 攻略法を教えてもらい研究し尽くしていた⟩

⟨その甲斐あって…⟩

私の実家は 決して裕福ではなく親に負担を かけたくありませんでした｡

⟨完璧な受け答えができた⟩

⟨ただ 似顔絵は…⟩

⟨まりりんの趣味が強くて若干 戸惑った⟩

⟨こうして 私たちは 無事に航空学校に合格⟩

⟨入学初日に まず覚えなければいけないのは⟩

♪～ 澄み渡る 大空に

♪～ 翼を広げ

(麻美) ⟨校歌⟩

⟨ただ 私は この校歌を…⟩

(麻美:真里)♪～ 我らの希望

(麻美) ⟨小学校時代から 歌っていたので今はもう…⟩

⟨ＪーＰＯＰ並みに歌える⟩ >> ♪～ 磨けよ心を

(麻美) ⟨ところで 航空学校は全寮制で⟩

(ノック)

渡辺先輩 近藤学生 入ります｡

(渡辺)＼はい／

(麻美) ⟨部屋は先輩と２人で同室⟩

⟨上下関係は厳しいけど…⟩

“ＳＰＥＣ”見ました？

(渡辺) 見た｡

神木君 めっちゃ気になる…｡

(麻美) それ絶対言うと思ってました｡

⟨先輩のデータが 全て頭に入っている私にとって気に入られるのは容易だった⟩

⟨ちなみに 部屋のベッドには カーテンが付いていて先輩が先に寝ている場合後輩は音を立てないよう 細心の注意を払ってカーテンを 閉めなければいけない⟩

⟨もちろん このテクニックも…⟩

(麻美) ⟨習得済み⟩

⟨７時30分 朝食⟩

⟨食堂はサラダ取り放題だけど お代わりは禁止⟩

⟨お茶も １回しか くんではいけない⟩

⟨ただし １回で何杯か 持ってくるのはＯＫなのでこういう人もいる⟩

⟨私はしない⟩

(真里) いただきます｡

(麻美) ⟨８時30分から授業⟩

⟨もはや私にとっては復習⟩

⟨ところで 航空学校には 独自の用語がある⟩

(高橋) そういえば 今朝 皆川がさ｢地上でできないなら上空で できるわけねえだろ｣っつってツボられてさ～｡

(広川) あぁ 俺も昨日クロスチェックが遅くて 超ツボられた｡

(麻美) あの人 マジでツボ教官だよね｡

⟨｢ツボ教官｣とは 厳しい教官のことで厳しい教官や キャプテンに怒られることを｢ツボられる｣という⟩

⟨ちなみに私は…⟩

〔なっちと ごんちゃんが ミタコングにツボられてたんだけどね〕 >> 〔何で？〕

(麻美)〔何か 授業中に手紙回したとかで わざわざ授業中断してみんなの前でツボんの〕 ⟨中学時代から使っていた⟩

⟨そして フライト訓練⟩

(麻美) ⟨人生初めてのフライトは やっぱり緊張した⟩

⟨一応 中学時代…⟩

(麻美) ⟨“ジェットでＧＯ！”を やり込んではいたけど⟩

⟨さすがに これは全然違った⟩

(真里の声) どうだった？ 初フライト｡

(麻美) ヤッバいね！

(真里) ヤッバい？ 何が？

(麻美) 私さ 実は元々 飛行機苦手だったの｡

>> えっ そうだったの？

(麻美) うん｡

だからさ 結構 直前までビビってたんだけど実際 飛んでみたら めっちゃ気持ちいいね｡

>> だよね 気持ちいいよね｡

(麻美) 気持ちいい｡

>> 何かさ 鳥になった気分だよね｡

(麻美) マジで感動した｡

分かる あの浮き上がった瞬間 鳥になった気分になるんだよなぁ｡

(麻美) もちろん緊張もしたんだけどさ それ以上に楽しかったもん｡

だよね 私の初フライトも 鳥になった気分だったもんなぁ｡

(麻美) いやぁ あの感覚は なかなか他では味わえないよね｡

そうだね あの鳥になった気分は なかなか他では味わえないね｡

(麻美) 私 この仕事向いてるかも｡

⟨こうして人生初フライトは鳥になった気分では なかったけど無事 成功に終わった⟩ >> 相変わらず鳥みたいだった｡

(麻美) ⟨そして フライト訓練で…⟩

(教官) ここで もし エンジン止まったらどうする？

(麻美) はい この高度だったら エンジン再起動を試みます｡

これより低い高度でしたら…あそこの高速道路に降ります｡

⟨数々の試験をパスするといよいよ就職試験が始まる⟩

近藤麻美と申します｡

(中村) へぇ～ 北熊谷なんだ？

俺も北熊谷なんだよ｡

(麻美) ⟨ここでの面接も…⟩

(真里)〔これが機長の中村さんで 地元が一緒なのね〕

(麻美)〔えっ 北熊谷？〕 >> 〔うん 履歴書見てさまず そこ食い付いてくるから 存分に利用して〕

(麻美)〔分かった〕 ⟨全てｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ済みなので⟩

私は 西霞中学校を 卒業いたしました｡

西中か 俺 霞中｡

(麻美) そうなんですね｡ ⟨余裕⟩

⟨そして…⟩

♪～

(麻美) ⟨航空学校を卒業した私たちは中小航空会社 日本ジェットスカイに入社⟩

⟨いよいよ ここからが本番⟩

(麻美) ⟨定期ミッションも 忘れてはいない⟩

(三田) 本人も焦りは感じてるとは 思うなぁ｡

(麻美) でも それで 何かするわけでもないし本人も売れる以外の解決策は 頭にないから何も変わんないんですよ ね？ ね？

それは しーちゃんも不安になるよね｡

(静香) そうなんだよね｡ >> ん？ ２人は離婚させたいのか？

(麻美) そうじゃなくて ２人の将来を考えたら決断するんだったら 早いほうが いいのかなと思って ね？

ね！ 私もそう思う しーちゃんだけじゃなく福ちゃんのためにもね｡

そうだよね｡

(麻美) そろそろ 先生 お時間です｡ >> そうか…｡

(麻美) ⟨無事 ミタコングと しーちゃん夫妻の未来も守り⟩

(真里) ごちそうさまです｡ >> 絶対残すなよ｡

(寛) ハァ～｡

(麻美)♪～ ﾊｯﾋﾟｰ ﾊﾞｰｽﾃﾞｰ ﾄｩ ﾕｰ

>> これ最高だな｡

(麻美)♪～ ﾊｯﾋﾟｰ ﾊﾞｰｽﾃﾞｰ ﾄｩ ﾕｰ

♪～ ﾊｯﾋﾟｰ ﾊﾞｰｽﾃﾞｰ ﾃﾞｨｱ お父さん

(遥) お風呂でやるやつだからね｡

(麻美) ⟨サイドミッションもクリア⟩

⟨定期ミッションその３⟩

(遥) てかさ お姉ちゃん 人生２周目でしょ？

(麻美) 何でそう思うの？

じゃないと つじつま合わなくない？

(麻美) そう？ そんなことはないけどさ｡

もしそうだったら どうする？ >> お姉ちゃんが２周目だったら？

ん～ 何もしない｡

(麻美) えっ そうなの？

何かないの？ 例えばさ 結婚相手 聞くとかさ｡

(遥) あ～ 結婚相手ね それは知りたい｡

(麻美) 遥の結婚相手はどうだろうなぁ う～ん…｡

どことなく お父さんに似た人じゃない？

>> 何それ あり得ないんですけど｡

(麻美) 何で？

私 斎藤 工か ほぼ斎藤 工の人 って決めてるから｡

(麻美) そうなんだ｡ >> うん｡

何だよ １周目かよ～｡

(麻美) ごめんね｡

いいよん｡

(麻美) ⟨ほぼ斎藤 工というより やや近藤 寛だと思うけど⟩

⟨何はともあれ…⟩ 飲み合わせが悪いんだよ｡

(遥) お姉ちゃん 何で分かんの？

(麻美) うちらさ 体調管理も仕事のうちだから一通り 薬のこととかも 勉強すんだよね｡

へぇ～ そうなんだ｡

(祖父) 麻美がそんなに言うんなら そうするよ｡

(麻美) うん そうして｡

⟨無事 ミッションクリア⟩

⟨定期ミッションその４⟩

(玲奈) いつか 絶対売れると思うんだよね｡

(麻美) ちょっと注目してみるね｡

そういえば 遥ちゃん元気？

(麻美) うん 今ね 熊谷アーキテクトで働いてるよ｡

玲奈ちゃん 待ってるんですか？

(宮岡) いや ドリンクを…｡

結婚指輪 外したんですね｡ >> あぁ いや 別に｡

すいません ほら 指輪の痕ついてるから ね？

あぁ… 食事中は外すんですよ｡

へぇ～ そうなんですか｡

へぇ～｡ >> そうなんですよ｡

玲奈ちゃんに連絡先 聞かないでくださいね｡

え？

大事な友達なんで｡

はい…｡

(麻美) ⟨宮岡シフトで完封⟩

⟨ちなみに…⟩

(玲奈)〔みやおかさんは きこんしゃ！〕

(麻美) ⟨あれのことは…⟩

いろんな｢だるまさんがころんだ｣ やったよね｡

>> そうだっけ？

(麻美) やった｡

⟨全く 覚えていないみたいだった⟩

もしトイレで 火災警報が鳴ったらどうする？

(麻美) まず ＣＡに確認します｡

⟨そして 私たちは28歳で 半年間の機長昇格訓練を受け⟩

(麻美) ⟨29歳で機長デビュー⟩

⟨今のところ予定通り⟩

⟨予定外のことといえば 20代で機長デビューした私たちパイロットコンビが 珍しいということで雑誌で取り上げられた⟩

何かさ ありがたいんだけど 困るよね｡

(麻美) それでしょ？ 困る｡

行くとこ行くとこでさ ｢見たよ｣とか言われるじゃん｡

(麻美) 今まで話したことなかった 社員さんまで言ってくるからね｡

後輩がさ 写真撮ってください とか言うんだけどさ別に私たちさ 芸能人とかじゃないからさ｡

(麻美) 困る｡ >> 困るよね｡

(麻美) ⟨つまり うれしいということ⟩

⟨ところで 雑誌といえば 研究医時代も何度か科学雑誌に論文が載って その時もうれしかった記憶が…⟩

⟨あ？⟩

⟨恐ろしいことに 気付いてしまった⟩

⟨前回の人生で 私はいくつかの 病気の原因になり得る菌の存在に気付いて論文にした⟩

⟨その研究がきっかけで救われた命が あったかもしれない⟩

⟨しかし今回は 当然 それらを発見していない⟩

⟨つまり 私の行動の変化によって救えた命が救えなくなるかも しれないということ⟩

⟨タイミング的には そろそろ発見する時期⟩

⟨どうしよう…⟩

⟨これって もしかして とんでもない過ちなんじゃ…⟩

⟨取りあえず私は 休みの日に大学に向かい…⟩

⟨いつもここで一緒に 昼食を取っていた多江さんを待ち伏せした⟩

⟨来た⟩

⟨問題は ここから⟩

⟨向こうにとって 私は面識のない ただの部外者⟩

⟨何て言おう⟩

(麻美) すみません あの 近藤という者なんですけれども｡

(多江) 近藤さん？

(麻美) はい すいません お食事中｡

ちょっとよろしいですか？ >> あ はい｡

(麻美) あの 私 普段から 個人的に遺伝子異常とか遺伝子修飾についての 研究をしてるんですね｡

>> 個人的に？

(麻美) はい そうなんです｡

先日 収集した組織に 見慣れない菌を発見したんですよ｡

>> 見慣れない菌？

(麻美) そうなんです｡

早急に そちらのラボのほうで 確認していただきたくて｡

>> うちで？

(麻美) そうなんです｡

⟨いやぁ 無理無理無理…⟩

⟨個人的に研究やってるとかただのマッドサイエンティスト でしかない⟩

⟨だったらもう いっそのこと…⟩

よっしゃ｡

(麻美) 鶴野多江さんですよね？ >> はい｡

(麻美) あの 私… ちょっとすいません｡

実は 人生５周目で で ４周目の時にここのラボで 一緒に働いてたんですよ｡

で 鶴野さんとも よくここで 一緒にランチ食べてて｡

へぇ…｡

(麻美) ⟨ヤバい ヤバいヤバい もっとヤバいわ⟩

⟨警察 呼ばれる⟩

⟨どうしよう… 取りあえず たまたまを装って話しかけて今日のところは 顔見知りにだけなる⟩

⟨そして 何度かここで顔を合わせてある程度 関係性ができたら…⟩

細菌感染がジェネティック エピジェネティックな変化を誘発することが分かったんです！ >> えっ マジか！

すごいね！

(麻美) ⟨この話をする⟩

⟨それしかない⟩

⟨ただ 話しかけるにも どう話しかければ怪しくないかだなぁ⟩

⟨取りあえず… 多江さんの論文を読んで研究に興味を持った という設定でいこう⟩

⟨久しぶりに このページ開くな⟩

⟨ん？ 私が発見した菌が載ってる⟩

⟨すでに発見されてる？⟩

⟨ラボの人たちによって 発見されている？⟩

⟨つまり あの菌は 私が見つけなくても誰かが 見つけていたということか⟩

⟨ということは 前回 救われた命は今回もちゃんと救われる⟩

⟨よかった！⟩

⟨助かった⟩

⟨ただ１つ気になるのは私が発見するよりも だいぶ早く発見している⟩

⟨これって考え方によっては私がラボの人たち いや それどころか医学界の足を 引っ張っていたということ…⟩

⟨考えないようにしよう⟩

⟨私がパイロットに なったことによって救われる命が増えたということ⟩

⟨そう考えよう⟩

⟨ところで 市役所時代 一緒に愚痴を言っていた同僚は私がいない時…⟩

(美樹) 告白されちゃった｡

(麻美) ⟨恋の話をしていた⟩

⟨多江さんも私といる時はここでよく 愚痴を言っていたけどもしかして 私がいなければ恋の…⟩ >> あいつマジで無能だよ 無能｡

成果出せないなら やめちゃえば いいんだよ あのクソ｡

(麻美) ⟨もっと ひどくなっていた⟩ >> 微生物研究してる場合か！

(麻美) ⟨ある休日⟩

⟨久しぶりに まりりんと 地元に帰ってくると…⟩

♪～ 何も無い場所だけれど

(麻美) 福ちゃんじゃん｡ >> ホントだ｡

♪～ 咲かない花がある

(麻美) 確か 時期的には そろそろやめる頃だよね｡

あ～ そうだね｡

♪～ 荷物

お… おぉ おぉ～｡

(麻美) よくここでやってんの？

いや ここでやるのは 10年ぶりぐらい｡

(麻美) へぇ～ そうなんだ｡ >> 始めたばっかの時はよくここでやってたんだけどね｡

(麻美) へぇ～｡

あ そうだ 実は俺 おととし 離婚してさ｡

(麻美) そうなんだ｡ >> へぇ～｡

でさ その後 バイト先の子と 付き合い始めたんだけどその子との間に子供ができてさ今度 結婚することになったのね｡

(麻美:真里) おめでとう｡

(福田) ありがとう｡

でさ まぁ 将来のことも考えてもう 音楽やめようかなと思って｡

いやぁ でも偉いよね｡

(麻美) うん 偉い偉い｡

やめるのも勇気いるもん ねぇ？ >> ありがとう｡

ホントはね 最後にライブとか やりたかったんだけど会場 押さえるのにも お金かかるしさここでいいかなと思って 一応 思い出の場所でもあるし｡

ここだったら 気が済むまで歌えるしね｡

そう 歌い放題だからね｡

(麻美) 何時からやってんの？

>> えっとね ８時過ぎかな？

(麻美:真里) え？

早くね？

(麻美) 朝からやってんの？ >> うん｡

８時間？ >> そうだね｡

(麻美) 全然 気が済んでないじゃん｡

いやぁ 何かさ これで最後だって思うとなかなか踏ん切りつかなくてさ｡

そうなんだろうね｡ >> あっ でも２人 来てくれたから もう最後にするわ｡

(麻美) おっ｡ >> お～｡

最後 聴いてもらってもいい？

(麻美) うん 聴く聴く｡ >> 聴く聴く｡

ありがとう｡

え～ じゃあ 最後は俺の代表曲で 終わりにしたいと思います｡

聴いてください “アイラブユーが世界を救う”｡

(拍手)

♪～ アイラブユーが世界を救う

(麻美) ⟨ミュージシャンの福ちゃんを 見るのもホントに これが最後⟩

♪～ 神様は

♪～ 君を知らない

♪～ 運命は

♪～ 道化師にあげた

♪～ くそったれと

♪～ 叫ぶ背中は

♪～ 鼻垂れ小僧の

♪～ 時のまま

♪～ アイラブ… ＼すいません ごめんなさいね／

(巡査) この場所 禁止だから｡

あ…｡ >> やめてもらえる？

すいません｡

(巡査) 急いでね｡ >> はい ごめんなさい｡

(麻美) ⟨歌っては イケナイ太陽⟩

(真里) 手伝うよ｡

(福田) あっ ごめん｡

それ畳んでもらっていい？

(麻美) ねぇ まりりんさ さっき どういう気持ちで聴いてたの？

>> 気持ち？

(麻美) いやだってさ 元々は付き合ってたわけでしょ？ >> うん｡

あそこで歌ってた時 よく一緒にいたよ｡

(麻美) え～ そうなんだ｡ >> うん｡

(麻美) どんな気持ちだったの？ さっき｡

ん～｡

(麻美) いや そりゃね 付き合ってたっていってもいろいろあったわけだからさ 複雑な気持ちだとは思うんだけど｡

>> 正直なこと言っていい？

(麻美) うん いいよ｡

おしっこ行きたいなって思ってた｡

いや 途中で行かなかったのは元カノとしての 最大限の優しさだよ｡

(麻美) ⟨福ちゃんのラストライブで 私たちは思い出は尿意に勝てない ということを学んだ⟩

⟨仕事のほうは目標通り 29歳で 機長としての資格を取得し…⟩

アフターテイクオフ チェックいきますよ｡

⟨私たちは 運命のフライトに向けて着々と キャリアを積み上げていた⟩

⟨もちろんスケジューラーさんとの関係性も 順調に築いた⟩

(堀口) 近藤さん｡

(麻美) はい｡

ホント急で申し訳ないんですけど あしたの801便柴田さんの代わりに 入れたりします？

(麻美) あした…｡

⟨正直 あしたは 休みたかったのだけどここは…⟩

大丈夫ですよ｡ >> ホントですか？ 助かります｡

(麻美) ⟨快く引き受け 貯金をつくっておく⟩

⟨そうすることで 後々の交渉もしやすくなる⟩

⟨そして ５周目の人生も 35年が経ち…⟩

(賢治) じゃあ 後ほど｡

(麻美) ⟨予定通り 遥が結婚⟩

⟨私的には39年ぶり２度目⟩

ねぇ 遥 覚えてない？ >> 何が？

(麻美) 私が前にさ 遥の結婚相手が どんな人か予想したの｡

>> そうだっけ？

(麻美) うん 覚えてない？

>> うん お姉ちゃん 何て言った？

(麻美) 私は 遥は何となくお父さんに似てる人と 結婚しそうって言った｡

>> え… 全然覚えてない｡

(麻美) そしたら 遥は｢え～ あり得ない 私 斎藤 工か ほぼ斎藤 工としか結婚しないから｣ って言ったんだよ｡

え～ そんなこと言ってたんだ ハハハ！

(麻美) 実際どう？ 結婚してみて｡

｢どう？｣って？ ほぼ斎藤 工じゃん｡

(麻美) だよね｡

⟨彼女がそう言うのなら 間違いない⟩

新郎から新婦へ どうぞ｡

新婦から新郎へ どうぞ｡

(麻美) ⟨ナイス ほぼ斎藤 工⟩

⟨そして 運命のフライトの２か月前⟩

⟨私たちは スケジューラーさんに 根回しをしに行った⟩

小学校からの幼なじみなのでぜひ２人で入りたいなと 思いまして｡

(堀口) それは入りたいですよね｡

分かりました 近藤さんたちには いつも助けてもらってるんで何とかします｡

(麻美) よろしくお願いいたします｡ >> よろしくお願いいたします｡

(麻美) ＯＫでしょ？ >> バッチリ｡

今までの貯金が役に立ったね｡

(麻美) 結構むちゃなお願い 聞いてきたもん｡

>> そうだよね｡

(麻美) うん｡

♪～

(麻美) ⟨前回の人生で まりりんと最後に会った日⟩

取りあえず これでやれることは 全部やったね｡

(真里) うん あとは当日 ２人で搭乗して航路を変更すれば完了だね｡

(麻美) そうだね｡

そういえばさ 前回もさ この日に ２人でここでお茶したんだよ｡

した それでさ なっちとみーぽんが来たんだよね｡

(麻美) そうそう…｡

でも 一緒にお茶するってことには なんなかったんだよね｡

うん でも一瞬 ｢これどっち？｣ みたいな空気にはなったよね｡

(麻美) 今回どうする？

>> どうするって？

(麻美) もうすぐ来ると思うけどさ思い切って誘ってみる？ >> え～ 大丈夫？

断られたら気まずくない？

(麻美) そうだけどさここで誘えなかったらさ 一生 無理な気がするんだよね｡

確かにね でもさ 断られるだけならまだしもさ断りづらくて無理して 一緒にいられるのもつらくない？

(麻美) じゃあさ 断りやすい感じで 聞いてみようよ｡

>> 軽い感じでね｡

(麻美) そうそう…｡

うちらは 別にどっちでも 大丈夫だけどみたいなノリで誘えばさ 仮に断られてもさ また誘えるじゃん｡ >> そうね｡

(店員) いらっしゃいませ｡

(夏希) ２名です｡

(店員) カウンター席かテラス席に なってしまうんですけども｡

あちら お願いします｡

(美穂) は～い｡

(夏希) 麻美ちゃん？

(麻美) なっち｡

(夏希) あぁ～！ 真里ちゃんもいる｡

やぁ～ お久しぶり｡

(麻美) 久しぶり｡

(美穂) 成人式以来だよね？ >> もうそんな経つんだ｡

(夏希) 確かに あれ以来かも｡

(麻美) じゃ 15年ぶりくらいか｡

(夏希) そっか！ え～ 懐かしいね｡

(麻美) 懐かしいね｡ >> 懐かし～い｡

(麻美) よかったら 一緒にお茶しない？

(夏希) えっ？ いいの？

(麻美) うん もちろん もちろん｡

でも ２人で話すこととか あるんだったら全然無理しなくていいんだけどね｡ >> ホント 無理しないでね｡

(夏希:美穂) あぁ… あぁ…｡

(夏希) うん｡

(美穂) ねぇ？

(夏希) うん するする しよう｡

(美穂) ねぇ｡

(麻美) ホントに？

(夏希) うん｡

(美穂) じゃ いい？ 横｡

(夏希) じゃあ お邪魔しま～す｡

♪～

(麻美) よかった 断られなくて｡

(夏希) え～ 何で 断んないよね｡

(美穂) うん 断んないよ～｡

(麻美) だって こういうのってさ うちらはよくてもさ２人が そんなつもりじゃ なかったら申し訳ないじゃん｡

(夏希) 何で 全然そんなことないよね｡

(美穂) うれしかった 誘ってくれて｡

ホント？

(美穂) 逆に うちらのこと覚えてるのが 意外だった｡

>> 覚えてるに決まってんじゃんね｡

(麻美) 超覚えてるよ｡

(夏希) あとさ ほら やっぱ２人とも賢いからさうちらと話しても つまんないんじゃないかなって思うよね｡

(麻美) 全然そんなことないよ｡

>> それはね ホントに誤解｡

(美穂) マジで？

たまたま 一緒に遊ぶ機会が なかっただけでホントは もっと 仲良くなりたかったよね～｡

(麻美) ドラマクラブとか 入りたかったも～ん！

(夏希) ってか ドラマクラブ 超懐かしいんだけど！

(美穂) そんなの よく覚えてんね｡

(麻美) うちらもドラマ 好きだったからさ｢ドラマクラブ超楽しそう｣って 遠くから ずっと見てたよね｡

(夏希) そうなんだ それは意外だね｡

(美穂) ずっと勉強してるイメージだった｡

そう思われてるんだろうなと 思ったからさこっちからは なかなか いけなかったんだよね｡

(麻美) でもさ ２人覚えてるか分かんないけど１回だけ 小学校の時に４人で シール交換したことあんだよ｡

>> したした！ したね｡

(夏希) あっ それは何か覚えてる｡

(美穂) 私も覚えてるよ｡

(麻美) マジで？

(美穂) だって ビックリしたもん｡

シール交換なんてするんだ って思って｡

(夏希) そうそう…｡

こんな庶民の遊び 興味あるんだって思ったよね｡

>> 超庶民だし｡

(麻美) でもねうちらが｢好きなシール 取っていいよ｣って言ったら２人とも 超雑魚シール選んだんだよ｡

もうね 全然釣り合ってないやつ 取ったんだよね｡

(麻美) だから あれで ｢あぁ ちょっと 気使われてるな｣と思った…｡

(夏希) 言われてみれば 確かにちょっと 気使ったかも｡

(麻美) だよね？

(美穂) 多分それはね 嫌われたく なかったんだと思うんだよね｡

(夏希) そうそう｡

(美穂) ね？

(夏希) 変なシールあげて つまんないとか 思われたら嫌じゃん｡

(麻美) そうなの？ うちらは 仲良くなりたかったからさ何か 気使われたと思って 若干ショックだったんだよね｡

>> ショックだった～｡

(美穂) えっ でも それいったらさ覚えてるか分かんないけど その後 ４人で歩いて帰ったじゃん｡

で 別れ道になった時に 真里ちゃん こっち側なのになぜか 麻美ちゃんのほうに 行ったんだよね｡

(麻美) 超覚えてる｡ >> 覚えてるよ 私も｡

(美穂) ホントに？ で 別れた後にさ ｢あれ？ 真里ちゃんうちらと帰るの嫌だったのかな｣ とか言って話したよね｡

(夏希) みーぽん家で “忍たま乱太郎”見ながらね｡

(美穂) えっ “忍たま乱太郎”だっけ？ “あずきちゃん”じゃなかった？

(夏希)“忍たま乱太郎”だって｡

(麻美) いや 違うの それはねまりりんも ホントは２人と帰りたかったの｡

だけど ２人に気使って なぜか こっちについてきちゃったの｡

(夏希) ホント？ >> ホント ホント｡

まださ そんなに仲良くなかったからさ２人の間に入って 気使わせるの 悪いなと思っちゃったの｡

(美穂) そうなの～？

(麻美) それ言ってたもんね｡

それで うちらは その後２人で “忍たま乱太郎”を家で見たのよ｡

(夏希) マジで？ >> ハハハ…！

(夏希) じゃあ もうあれだね ４人で “忍たま乱太郎”見ればよかったね｡

(美穂)“忍たま乱太郎”だっけ？ “レッツ＆ゴー!!”じゃなかった？

(夏希)“忍たま乱太郎”だよ｡ >> “レッツ＆ゴー!!”って何？

(美穂)“爆走兄弟 レッツ＆ゴー!!”｡ >> 知らない｡

(美穂) 何で知らないの？

(夏希) えっ むしろ何で知ってんの？

(美穂) ウソ？

(麻美) ミニ四駆のやつでしょ？

(美穂) そうそう…！ >> 知ってるの!?

(麻美) 知ってる～！

♪～ “Best Friend”

(麻美) ⟨２人は どうか分からないけど 私は今回の人生でこの時が 一番楽しい時間だった気がする⟩

⟨まりりんも きっと そうだと思う⟩

♪～

(麻美) よかったね！ >> よかったね～！

っていうかさ 全然ＯＫな感じじゃん｡

(麻美) こんなんだったらさ もっと早く 話しかけるべきだったよね｡

ホント！ 何かさ お互い 気使ってたんだね｡

(麻美) 元々はさ ずっと一緒にいたわけだからさノリは合うはずなんだよね｡ >> そうだよ｡

っていうかさ 今の１時間で今までのﾌﾞﾗﾝｸ 埋まった気しない？

(麻美) そうだったね｡

でもね ちょっと細かいこと 言っていい？ >> うん｡

(麻美) 呼び方はね ｢麻美ちゃん｣と ｢真里ちゃん｣だったけどね｡

そこなんだよね～｡

(麻美) まぁ でも１時間で ｢あーちん｣｢まりりん｣昇格はさすがにハードル高いかもね｡ >> まぁ おいおいね｡

(麻美) そうね 取りあえずは あの２人を救わなきゃだね｡

うん そうだね まずは無事救って戻ってきたら一緒にさ 勝利のパスタ 食べよう！

(麻美) パスタなの？ >> パスタでしょ｡

(麻美) ⟨久しぶりに会って 話したことでより一層 彼女たちを 救いたい気持ちが強くなった⟩

⟨そして 運命のフライト ３週間前⟩

(麻美:真里) お疲れさまです｡

(麻美) ⟨これまで着実に積んできた キャリアと地道な根回しが実りついに私たちは 機長と副操縦士として937便の コックピットに入るこ…⟩

あれ？

(麻美) え？

(真里) え？

(麻美) ん？

入ってる？ >> 入ってるよ｡

え？

(麻美) えっ？

>> え？

(麻美) え？

堀口さん すいません 937便 私 入れてないんですけど｡

あぁ ごめんなさい｡

副操縦士のほうは 宇野さんで 入れられたんだけど機長のほうは すでに中村キャプテンで決まってたみたいなんですよね｡

(麻美) えっ そうなんですか｡

>> ホント 申し訳ないんですけど｡

(麻美) えっ どうしよう…｡

あの これって どうにかならないんですか？

さすがに 中村キャプテンの スケジュールは動かせないですね｡

(麻美) ⟨予想外の事態が起こっていた⟩

>> まずいね｡

(麻美) まずいね｡

しかも 相手は中村さんだからね｡

前は 中村さんと 私のペアだったんだけどさまさか 本人希望のシフトだったとは｡

(麻美) これ動かすの大変そうだね｡ >> 大先輩だからね｡

(麻美) あ～ でもさ あの人 厳しいけど 悪い人じゃないからちゃんとお願いすれば 聞いてくれると思うんだよね｡

そこは代われないなぁ｡

もう随分前から希望出して 入れてもらってるからさ｡

(麻美) そこを何とか 代わっていただけませんか？

実は 幼なじみが この便に乗ることになってて｡

代わってあげたいんだけど 俺 長いこと台北行ってないからその便 飛ばないと 空港資格 切れちゃうんだよ｡

(麻美) なるほど｡ ⟨パイロットは各空港に空港資格というものが 設定されていて１年間その空港に行かないと 資格が切れてしまう⟩

そうですか…｡

(真里) 参ったね…｡

(麻美) いや 参った｡

取りあえず まだ少し 時間あるからさもう一回 お願いに行くね｡

土下座してでも 譲ってもらわないとね｡

(麻美) うん｡

でもさ もしダメだったらさ強行手段に出るしかないかもね｡

(麻美) 強行手段？

何？

毒を盛る｡

(麻美) 毒？